

令和4年度 学校評価書 (計画段階・**実施段階**)

45

福岡県立福岡中央高等学校

自己評価			学校関係者評価		
学校運営計画(4月)			評価(総合)	評価(総合)	
学校運営方針	平和で民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい意思と実践力を備えた、心身ともに健康で国際感覚豊かな人材の育成を目指す。また、夢・志を持って未来に生きる人間性豊かで逞しい生徒を育成し、明朗・真摯な校風を継承、発展させる。		A	A	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
成果: (1)新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置の期間中からオンラインによる学習支援や生徒指導を積極的に実施した。 (2)教員の共通理解を図りながら観点別評価を段階的に導入し、円滑に実施できた。 (3)総合的な探究の時間にSDGsをテーマに世界的な視点で多角的に物事を考える学習を展開した。 (4)SNSによる情報発信を頻繁に行い、幅広く学校の広報活動を発展させることができた。 (5)カウンセリングの機会を充実させるとともに、教育相談委員会を中心に生徒の情報共有を行い、きめ細かな対応を進めた。 (6)体育大会の屋内実施など2学期制の特色を生かした柔軟で効果的な教育活動を推進した。 課題: (1)タブレット端末等を活用したGIGAスクール構想の実現 (2)SDGsを教科横断的な視点で取り組み、カリキュラムマネジメントを推進する。 (3)自転車等の交通法規の遵守の徹底による事故防止やSNSのマナー等、一層の向上を図る。 (4)異文化理解のために国際交流活動の組織的取組を推進する。	「確かな学力の向上」	計画的・体系的な教育課程経営を通じた学習指導要領の理念実現			
		観点別評価の充実を図り、指導と評価の一体化を組織的に推進する			
		他者と協働して課題を解決する能力を育成するための教育活動の工夫			
		学習意欲の向上及び家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫			
		国際化対応に資する英語の資格検定試験受験への積極的取組			
		将来を見据えたキャリア教育及び3年間を通じた「総合的な探究の時間」の体系化と実践			
		面談の実施、進路先検討会・進路企画会議等による教職員の共通理解と指導体制の一層の充実			
		生徒の進路希望に対応した講座制等による効果的な課外及び補習の計画と実施			
		高い志を育み難関大学合格を目指す学校全体での進路指導の取組の充実			
		「キャリア教育の一層の推進と充実」	全職員の共通理解に基づく厳しく親身な生徒指導体制の推進		
「自己指導能力を育成する組織的生徒指導体制の確立」	心のこもった挨拶や静止礼の励行を基本とした礼節を重んじる教育の徹底				
	SNSによるトラブルやいじめ問題に対する未然防止と早期発見・早期対応の取組				
	自転車等の交通マナー指導の徹底と組織的対応。安全安心な学校づくりの推進				
	カウンセリングマインドに基づく寄り添う指導に徹した教育相談体制の推進				
	教育活動全体を横断的に見直し、生徒の多様な資質・能力を伸ばす効果的な2学期制の運用				
	異文化理解・グローバル化対応のための国際交流の機会の設定及び取組の推進				
	政治的教養を育み社会参画意識を醸成する主権者教育の実践				
	一人1台端末を活用したGIGAスクール構想の実現				
	教育相談領域の組織体制を効果的に運用しながら教職員全体による相談対応力を充実させる				
	「今日的課題に対する対応」	日常的な安全衛生意識の更なる向上と感染症予防の徹底			
「道徳教育、人権教育、国際理解教育、主権者教育の推進、教育支援サービスの活用」					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務課	並立した教育課程における円滑な経営	校務支援システムに関わる人員を1学年あたり2人に増やすとともに、内容を単純化する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●教務課業務の精選と見直しを行い、早めの対応を行う。 ●校務支援システム内の業務をさらに役割分担していく。 		
		1か月に1度は教務課会議を実施して、早目かつ丁寧に教務課業務が行えるようにする。	C				
		生徒指導要録作成において、進路指導課とタイアップして、統一した記載事項を作成する。	B				
		成績処理において、ミスが出ない・ミスが発見できるようにシステムや処理のマニュアルを作成する。	A				
	観点別評価の充実及び指導と評価の一体化の推進	観点別評価を生徒に示す場を設ける。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ●採点ナビ等を利用することで、採点活動のスリム化ができていますので、更なる利用促進を行う。 ●考査後の成績処理を正確かつ丁寧にできるように日程設定を検討する。 	
		観点別評価について教科で話し合う場・時間を設定する。	B				
		ICT機器や教育支援サービスなどを活用して、評価のスリム化と授業改善を図る。	A				
	持続可能な教務課業務の運営	教務課業務を精選・分担し、複数人で業務にあたるようにする。	A	A			<ul style="list-style-type: none"> ●考査の時間割や時制・日程も弾力的に設定し、正課の時間を有効に実施できているが、役割分担を見直し改善していく。
		時制・日程・考査の時間割などを生徒・教員の実情に合わせて弾力的に設定する。	B				
	企画広報課	式典への早期の取組と円滑な運営	各分掌・学年との連絡調整を密に取る。式典、行事ごとの実施要項を早めに提示し、周知徹底を図る。	A			
前年度までの反省をいかした式典、行事の運営を行う。また、次年度に向けて資料の整理を行う。			B				
FCチャンネルを活用し、コロナ禍でも確実な行事、式典の運営を行う。			A				
中学生・保護者・中学校・学習塾への広報・PR活動の充実		ホームページの内容(部活動)を充実させる。SNS(Instagram)を積極的に更新し、学校のPR活動を行う。	B	A			
		学校公開Week、オープンスクール、進路相談事業における中学生へのPR活動を円滑に行う。	A				
		中学校PTA訪問・中学生の体験入学の積極的受け入れを行う。	A				
庶務分野の確実な実施と職員の福利厚生面への寄与		中学校・学習塾(年2回)への訪問を確実に進行。また、昨年度より多くの先生方が関わる形で行う。	A	A			
		給湯室衛生管理当番制の継続、冷蔵庫の整理を長期休業中前ごとに行う。	A				
図書館課	幅広い教養と豊かな感性を備えた生徒を育成するために、読書啓発に努め、図書館利用を促進(図書年間貸し出し冊数目標3500冊)	朝の10分間読書を実施し、読書習慣の定着を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●朝読書実施時における途中入室者を出さないための取り組み(8:35着席完了の徹底)を行う。 ●教科・分掌・学年との繋がりを意識した図書館運営を行う。 ●校誌編集委員会を定例化し、活性化を図る。 ●図書委員会活動の活性化を行う。 ●カウンター業務や清掃活動に対する意識の向上を行う。 ●ブックハンティング(選書ツアー)やブックマンション(棚一つ分の小さな本屋)に対する更なる工夫を行う。 ●ビブリオバトル学年別決勝の実施時期検討と熱中症対策を検討する。 		
		「図書館便り」「図書館報」等を通して読書意欲を喚起し、図書館の利用率を高める。	B				
		教科・分掌・学年と連携し、図書館オリエンテーション時や長期休暇前の図書の数貸し出しを促進する。	B				
	図書委員会活動を充実させ、生徒の自主性と責任感を養うとともに、他者と協働して課題を解決する能力の育成	カウンター業務・館内整理・図書館清掃など図書委員の自主的な活動の活性化を図る。	B	B			
		「図書館便り」(年5回)、「図書館報」(年2回)の発行や図書館の展示等を図書委員主体で行う。	B				
		図書委員に「図書館祭」の企画・運営を担当させ、自主性と責任感を養う。	B				
	「図書館祭」の企画充実による豊かな感性や表現力の育成	ビブリオバトルを定着させ、さらに充実したものとする。	A	A			
		授業や部活動で制作した作品展示などを行い、来館者を増やすための工夫をおこなう。	A				
		感染防止対策を徹底しながら「平尾大学との合同読書会」を実施し、地域との交流を図る。	A				
A	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックハンティングは個性を生かした表現へつなぐことができると思う。 ・図書館が読書の場と生徒の居場所になればよいと思う。 ・デジタル書籍を導入してはどうか。 					

生徒指導課	規範意識育成学習等を通じた生徒の自己指導能力の向上	生徒会・PTAと協議しながら校則の見直しを進め、全職員が共通認識のもと生徒指導にあたる。	A	A	A	●すべての生徒を対象にした生徒相談体制を構築するとともに、相談しやすい体制づくりを行う。 ●交通マナーの向上を行い、更なる自転車事故減少を目指す。	A	・登校時に気持ちよい笑顔で挨拶がなされ、心が洗われます。 ・自転車のマナーは改善しているが、1年次の事故が多いので4月における交通マナー指導を徹底してほしい。今後もジェンダーレス対応等を含め、校則の見直しを進めてほしい。	
		生徒指導課・管理職・全職員の情報共有をスムーズに行い、問題行動の未然防止と早期対応に努める。	A						
		交通安全教室や登校指導を実施し、生徒が主体的に交通マナーを守ることで、自転車事故の減少を図る。	A						
	礼節を重んじる態度を基本とし、互いの個性を尊重する自己表現力を育成	教育相談の組織体制を確立し、全職員が生徒に寄り添う指導を心掛けて諸課題に対応する。	B	B					●生徒会役員、部活動生、上級生がさらにリーダーシップを発揮して、学校を活性化させることが課題である。
		学校行事・部活動・生徒会活動においてリーダーシップを発揮させる機会を設け、リーダーを育成する。	B						
		新入生指導等を通じて、校門礼・静止礼・掃除など本校の良き伝統を上級生から下級生に継承させる。	B						
生徒が安全安心に高校生活を送れるよう、地域や関係機関と連携	主体的な生徒会活動によって各種行事を企画運営し、さらなる学校活性化を図る。	A	A	●登下校時の交通事故の減少やマナーアップ向上のため、適宜指導を強化したり、啓発活動の工夫が必要である。					
	部活動生や生徒会役員を中心とする本校生が、地域の行事等に積極的に参加・貢献する機会を設ける。	A							
	地域(平尾校区)・近隣の小中高校との連携による巡回指導や夜間パトロールに積極的に参加する。	A							
保健環境課	生徒が心身ともに健康で、安心して学校生活を送ることができるように支援	生徒の健康状態を把握し、養護教諭と担任・副担任、学年主任、管理職との迅速な連絡および情報共有を図り、適切に対処する。	B	A	A	●校内救急体制の確認・周知が必要である。 ●紙による健康チェックが形骸化しているので端末入力体制を検討したい。	A	特になし	
		生徒の健康課題を支援するために必要な情報を共有し、校内や家庭との連携を図りやすい環境づくりに取り組む。	A						
		掲示・放送等を活用し、新型コロナウイルス感染症等、感染症の予防に努める。	A						
	生徒の安全を確保	有事に際し、自分で考え行動できる力を育むことができるよう、効果的な防災訓練を実施する。	A	A					●従来とは違う避難訓練ができたが、周知に課題が残った。次年度は自分で考え、行動できる力を育むことができるような防災訓練を実施する。
		校内の安全点検を定期的に実施し、職員全体の安全意識を高める。	B						
		掲示・放送等を活用し、ごみの削減・分別、リサイクル活動を徹底し、学校全体で環境への意識向上を図る。	A						
学校全体で「中央ECOプラン」の定着と校内美化の推進	新入生オリエンテーションやBEAUTY WEEKなど、美化局を中心に、掃除に取り組み姿勢の育成に努める。	B	B	●SDGsへの理解は進んでいるので、具体的取組を推進していく。 ●職員室の給湯室の美化を企画広報課と検討したい。					
	前後期ともにワックスがけを行い、環境美化を推進することで感謝の心を育む。	B							
		B							
進路指導課	九州大学他難関大10名以上、国公立大学計130名以上の合格	大学進学課外に講座制を取り入れ、生徒の進路希望に応じた講座を開講する。	A	A	A	●大学進学課外の科目の見直しをおこない、生徒がより選択しやすいうようにする。 ●進学実績目標の達成のための具体的対策を再検討する。	A	・総合的な探究の時間は社会に出た後に必要な自分で問題を見つけ、解決していく力をつけるので、今後の内容充実を期待する。 ・増加傾向にある総合選抜型・学校推薦型入試等への対応を期待する。 ・国際交流が順調にいくように支援していきたい。	
		年3回の進路先検討会について、その時期に応じた内容を工夫する。	A						
		模試については全体的な分析だけでなく、生徒一人一人に焦点をあてた分析をおこなう。	B						
	生徒の進路意識向上に対するサポート体制の充実	「進路の手引き」を早期に完成し、模試の事前指導の充実を図るなど、年間を通して活用する。	B	A					●「進路の手引き」を早期に完成することができ、例年よりも活用することができた。次年度はHR等でまとまった時間を確保して活用する。 ●「進路の手引き」について、個人情報保護、入試科目・時間の変更等の観点から改訂を行う。 ●ACEクラブを、これまで以上に講座中心の体制から添削、面談等へと切り替えた。次年度はACEプランとして内容の検討を行う。
		ACEクラブ等の学習会を実施し、早期に難関大学を目指す意識と学力を身につけさせる。	A						
		1・2年次から、面談等を通して将来を見据えた志望校選択と志望理由について考えさせる時間を設ける。	A						
3年間を通じたキャリア教育の充実	1年次から3年次までを見据えて、各学年の「総合的な探究の時間」の内容を構築する。	B	A	●次年度以降に向けた、3年間を見通した「総合的な探究の時間」について検討を重ねる。 ●AMSAスクールとの交流を深め、次年度のポスコン研修の準備を進める。 ●イングリッシュシャワーについて、冬季休業中の実施を調整する。					
	異文化理解・グローバル化対応として、AMSAスクールとの交流、イングリッシュキャンプ、イングリッシュシャワーなどをおこなう。	A							
		A							
研修情報課	授業改善に向けた取り組みの計画と推進	相互授業参観を推進し、フィードバック等による授業改善に取り組む。(様式の改善)	B	B	A	●授業アンケートについては、結果を素早く確認し、授業にフィードバックできる方法に変更したので、更なる授業改善につなげる。 ●相互授業参観での参観数を増やすことが課題である。	A	・一人一台端末を利用した取組の充実。 ・プレゼン能力の向上や教科「情報」への対応を充実してほしい。	
		授業アンケートを教師側だけでなく、生徒にとっても振り返るチャンスになるように計画を進める。	B						
	研修事業の計画的実施	校外研修や公開授業の案内を確実にし、積極的に参加することを促し、学んだことを共有できるようにする。(研究紀要の充実)	B	A					●観点別評価や1人1台端末の活用について、他教科と共有できる研修も必要である。
		職員研修会については、昨年度アンケートで希望が多かった内容について職員研修を積極的に取り入れ、日頃の教育活動に活かせるようにする。	A						
	情報機器の管理および有効活用できるよう計画・運営	現在整備されている情報機器・ネットワーク環境やClassiの管理を徹底するとともに、職員全員が利用しやすい環境を整える。	A	A					●1人1台端末の活用について、授業における実践例の共有を行う。 ●ICT支援員による支援体制の拡充。
		一人1台端末利用に向けて、その活用方法の情報を収集・提供し、端末を利用しやすい環境を整備するとともに、生徒端末の管理方法を計画する。	A						
FCチャンネルやオンライン機器の管理を徹底するとともに、その利用方法について職員への周知徹底を図る。		A							

1年	確かな学力の向上と論理的思考の涵養	新学習指導要領の理念を理解し、充実した授業を実施する。	A	B	●学習時間や学習意欲に二極化が見られ、計画的で地道な学習活動を促すためにも、もう少し具体的な目標設定や仕組みが必要である。 ●従来型の学習方法を見直しながら、一人一台端末の導入とそれを学力向上につなげることが必要である。	A	特になし	
		学習時間調査や面談を通して、学習習慣の定着を促す。	B					
		教科で学んだ知識を基に深く考え、社会の課題や問題に積極的に関わるとする姿勢を育てる。	B					
	基本的生活習慣の確立と他者を尊重し、多様性を認め協働して学校生活を送る生徒の育成	規律を遵守し、自らを律することができる強い意志を培う。	A	A				●SNS上での発言等に対する注意喚起を徹底する。 ●登下校時のけがなどが多かったので、安全教育の徹底とゆとりを持った行動を推進する。
		行事や部活動、ホームルーム活動を通じて、アイデンティティを確立し、他者を認め、共に助け合う姿勢を育てる。	A					
		清掃を徹底し、身の回りや学校内外を整える。	B					
将来を見据えたキャリア教育の実践	面談を通して、生徒の特性や個性を理解しようとする努力、幅広い進路の知識を身につけさせる。	A	B	●希望課外の在り方や講座のたて方に工夫が必要である。 ●総合的な探究の時間で取り組んだLOCUSについて、更なる研究及び取組の深化が必要である。				
	講座制課外を活用し、早い時期から効率的に学力をつけることができるよう指導し、進路実現につなげる。	B						
	外部資格の取得（在学中、英検2級全員取得目標）や校外の様々な講演会やセミナー等への出席を推奨し、進路実現の礎とする。	B						
2年	主体的学習態度のさらなる向上	課題・小テストの適正化・家庭学習記録の継続を通じて、最低でも家庭学習2時間を確保させる。	B	B	●2年次では1日2時間の家庭学習時間確保ができていなかったため、意欲向上を図り、受験期の適切な学習時間確保を推進する。 ●英検の受験者が増加しているため、個別指導以外にも一斉指導の方法も工夫する必要がある。	A	特になし	
		授業で学力をつけようとする態度、分からないところを質問する態度、課題提出を守る態度を養成し、考査前の補講を最小限まで縮小する。	B					
		実用技能英語検定準2級取得200名、2級100名の取得を目指す。	B					
	進路目標決定に向けての多角的なアプローチ	調べ学習やオープンキャンパス・イングリッシュキャンプ・国際交流事業などへの参加を通じて2年終了時まで進路目標を固めさせる。	A	A				●ACEクラブの生徒を核にして、成績上位者を増やす必要がある。 ●一般入試以外にも学校推薦・総合型入試を視野に入れた進路指導を計画的に行う。
		模試偏差値60～65の層以上50名を目指す。また推薦入試を視野に入れ、校外での研修に参加させながら、国公立難関校受験可能な上位層を増やす。	B					
		総合的な探究の時間を活用し、学問探究・修学旅行の準備と総括などキャリアに向けて主体的に学習する機会を持たせる。	A					
中堅学年としての責任と心身の健康保持	中堅学年として、リーダー・フォロワー両者を育成し、学校行事などで協働する態度を養わせる。	A	A	●修学旅行に象徴されるように学校行事への取組が成功しているため、次年度もリーダーを育成や全体の意識向上をおこない体育大会等の行事を成功させる。 ●スマホ等の使用状況を改善するなど生活を工夫させ、睡眠時間の確保を目指す。				
	求春成年を控える生徒に対して、学年を挙げて指示過多の指導を控え、正当な批判力を育成し、責任ある行動を求めてゆく。	B						
	二者面談・三者面談を計画的に実施し、カウンセリングマインドで生徒の困り感に対応する能力を獲得する。	B						
3年	進路実現に向けて粘り強く努力し、挑戦できる集団の育成	学年団で生徒の情報や入試制度の情報を共有し、協力して進路指導にあたる。国公立大学130名、うち難関大学10名以上の合格を目指す。	B	A	●休日学習会においては、生徒の真摯な努力姿勢が見られたため、全学年の取組として継続して行う。 ●学校推薦・総合型選抜入試の志願者が年々増加する中で、学年を越えた面接指導の体制を構築する必要がある。	A	感動的な素晴らしい卒業証書授与式であった。	
		二者面談においては、進路・学習面だけでなく悩みや不安の解消にも留意し、学期に2回以上行う。また、必要に応じて担任以外も面談を行う体制を構築する。	A					
		課外や休日学習会の参加を奨励し、学校を軸とした受験勉強の型を作る。	A					
	最上級生としての自己の役割の自覚とそれに基づく行動力の育成	リーダーとしての意識を高め、74回生が創り上げた新たな体育大会を継承し、さらに発展させる。	A	A				●体育大会は成功したが、体育大会後の学校生活において、リーダーたちが継続して全体を引っ張るまでには至らなかった。行事後におけるリーダーの意識向上に努める。
		部活動や体育大会が終わった後も、リーダーとして継続して下級生を指導できるように促す。	B					
		教室の掃除や荷物の整理整頓に力を入れて、落ち着いた環境を作る。	B					
成人として必要な礼節と社会性の育成	初心に返って「静止礼」や「校門一礼」など本校の伝統的な礼節の凡事徹底を図る。	B	B	●教室の環境整備は定期的に指導をすると改善するが、意識を高く持ち続けるために、担任会などで基本事項ができていないかを定期的に確認することが必要である。				
	昨年度からの課題である安易な遅刻・欠席を減らすために、生徒一人に複数の教員で声掛けを行い、粘り強く指導する。	B						

事務	県民に信頼される教育行政の推進	内部統制により、財務規則等法令を遵守した適正な会計処理を行う。	A	A	●経済的に困窮している世帯に対し、就学支援金・給付金、奨学金の案内・説明を繰り返し行い、校納金納入の支援をおこなうことができたが、授業料の納入遅れによる延滞金の発生が3件あり、的確な情報発信を引き続き行うと共に、先生方との更なる連携が必要である。		
		学校徴収金・指定物品等の見直しにより、保護者の負担軽減を図る。	A				
		保護者等外部に対して、丁寧かつ確かな情報を発信する。	A				
	学校経営への参画	各分掌と密に情報を共有し、学校教育目標の実現を図る。	A			A	●社会情勢の影響による光熱費の高騰等で厳しい財政状況が引き続き予想されるため、予算執行内容をより精査していく必要がある。
		生徒のニーズに応える、効果的な予算編成・執行を行い、良好な教育環境を整える。	B				

A	特になし
---	------

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・学校のInstagramに生徒の視点を導入した広報活動の充実。
- ・図書館祭・ビブリオバトル・ブックハンティングなどを通じた読書活動の推進。
- ・交通安全教育を入学当初に実施することによる自転車事故件数の減少。
- ・ACEクラブの活用や多様な入試制度に対応した進路指導の充実。
- ・国際交流の充実のため、姉妹校との定期交流や短期海外研修の実施。

評価項目以外のものに関する意見

エステ契約等の18歳成人に伴う相談が増えているので消費者教育を充実させてほしい。